

俳句

◆日歸上人追憶 羊 去

み親逝きてこゝに三歳の紅葉かな
霜月やありし昔の偲ばるゝ
一の江の終焉いっせの空に秋深し
朝夕に仰ぐ賜筆や師がいさを

櫻庭是寶

追ふ者の追はるゝ影や走馬燈
あふがるゝ團扇の風や猶暑し
鍬擔ぎ戻る野原や夕雲雀
耕すや鍬の柄傳ふ雫汗
山寺や晝も來て鳴く時鳥
遠近の山けぶり居り春の雨
古寺や陽炎燃ゆる鬼瓦

田川 惠良

新緑裡法鼓聞ゆる身延山
春風や辻説法の人の群れ
杖の端にふくべ床しや紅葉狩
呑海

川柳

長話抱かれてる兒が承知せず
終風呂に母の長湯や春の宵
遠足の生徒過ぎ行く砂ほこり
何事ぞ身延詣でに厚化粧
朝寝坊此處にも一人二食主義
あの顔で甘へてるとはブルドック
此の猫とつめつて見れば友の足
かぼちや棚我もの顔に青ふくべ
紅葉狩本堂でする田舎寺
櫻庭生
虚言
田河泡